

ブリュッケの仕事 (1996～2019)

- 1 1997年9月 ジャポニスム——幻想の日本 馬淵明子〔著〕
- 2 1997年12月 美術とジェンダー——非対称の視線 鈴木杜幾子・千野香織・馬淵明子〔編著〕
- 3 1997年12月 能楽師 A・ゴデル〔著〕・小野暢子〔訳〕
- 4 1998年6月 マイムの言葉——思考する身体 E・ドゥクルー〔著〕・並木孝雄〔監修〕・小野暢子〔訳〕
- 5 1998年7月 むかしばなし羅姪伝説 松永尚三〔著〕
- 6 1998年12月 ダダの性と身体——エルンスト・グロス・ヘーヒ 香川檀〔著〕
- 7 1999年3月 漱石と鷗外の遠景——古典で読み解く近代文学 島内景二〔著〕
- 8 1999年10月 ヴェネツィアと日本——美術をめぐる交流 石井元章〔著〕
- 9 2000年2月 セザンヌとゾラ——その芸術と友情 新関公子〔著〕
- 10 2000年6月 世紀末の都市と身体——芸術と空間あるいはユートピアの彼方へ 長谷川章〔著〕
- 11 2000年6月 境界の美術史——「美術」形成史ノート 北澤憲昭〔著〕
- 12 2001年1月 ルネサンスの彫刻——15・16世紀のイタリア 石井元章〔著〕
- 13 2001年10月 装飾／芸術——19-20世紀フランスにおける「芸術」の位相 天野知香〔著〕
- 14 2002年2月 美術史を語る言葉——22の理論と実践 ネルソン／シフ〔編〕・加藤哲弘／鈴木廣之〔監訳〕
- 15 2002年9月 パリ植民地博覧会——オリエンタリズムの欲望と表象 P・モルトン〔著〕・長谷川章〔訳〕
- 16 2002年11月 イコノグラフィー入門 R・ストラーターテン〔著〕・鯨井秀伸〔訳〕
- 17 2003年2月 美術史の歴史 V・マイナー〔著〕・北原恵／吉城寺尚子／田中久美子／保井亜弓〔訳〕
- 18 2003年3月 「日本画」の転位 北澤憲昭〔著〕
- 19 2003年11月 ギリシャ美術史 J・ポリット〔著〕・中村るい〔訳〕
- 20 2003年12月 表象としての美術、言説としての美術史
——室町将軍足利義晴と土佐光茂の絵画 亀井若菜〔著〕
- 21 2004年5月 「日本画」——内と外のあいだで「日本画」シンポジウム記録集編集委員会〔編〕
- 22 2004年6月 都市のなかの絵——酒井抱一の絵事とその遺響 玉蟲敏子〔著〕
- 23 2004年9月 パリ1900年・日本人留学生の交遊
——『パンテオン会雑誌』資料と研究『パンテオン会雑誌』研究会〔編〕
- 24 2005年1月 北魏仏教造像史の研究 石松日奈子〔著〕
- 25 2005年1月 韓国近代美術研究
——植民地期「朝鮮美術展覧会」にみる異文化支配と文化表象 金恵信〔著〕
- 26 2005年6月 画家がいる「場所」——近代日本美術の基層から 田中淳〔著〕
- 27 2005年7月 描かれた歴史——日本近代と「歴史画」の磁場 山梨俊夫〔著〕
- 28 2005年9月 「風景」という虚構——美術／建築／戦争から考える 暮沢剛巳〔著〕
- 29 2005年11月 交差する視線——美術とジェンダー2 鈴木杜幾子・馬淵明子・池田忍・金恵信〔編著〕
- 30 2005年12月 ヴェール／ファロス——真理への欲望をめぐる物語 神尾達之〔著〕
- 31 2005年12月 物語世界における絵画的領域——平安文学の表現方法 川名淳子〔著〕
- 32 2006年4月 美術史家、大いに笑う——河野元昭先生のための日本美術史論集
河野元昭先生退官記念論文集編集委員会〔編〕
- 33 2006年4月 琳派 RIMPA——国際シンポジウム報告書 東京国立近代美術館〔編〕
- 34 2006年8月 不鮮明の歴史 W・ウルリヒ〔著〕・満留伸一郎〔訳〕
- 35 2006年10月 絵筆の姉妹たち——19世紀末パリ、女性たちの芸術環境 T・ガーブ〔著〕・味岡京子〔訳〕

- 36 2007 年 1 月 切断の時代——20 世紀におけるコラージュの美学と歴史 河本真理 [著]
- 37 2007 年 2 月 林忠正——ジャポニスムと文化交流 林忠正シンポジウム実行委員会 [編]
- 38 2007 年 4 月 イメージとテキスト——美術史を学ぶための 13 章 稲本真理子・池上英洋 [編著]
- 39 2007 年 7 月 デザイン的思考
——つまようじからロゴマークまで J・ヘスケット [著]・菅靖子／門田園子 [訳]
- 40 2007 年 7 月 でも、これがアートなの？——芸術理論入門 S・フリーランド [著]・藤原えりみ [訳]
- 41 2007 年 9 月 イギリス美術の風景 塩田純一 [著]
- 42 2007 年 11 月 美術批評と戦後美術 美術評論家連盟 [編]
- 43 2008 年 2 月 モダニズムとデザイン戦略——イギリスの広報政策 菅靖子 [著]
- 44 2008 年 2 月 異国の表象——近世輸出漆器の創造力 日高薫 [著]
- 45 2008 年 3 月 レオナルド・ダ・ヴィンチ——人と思想 古田光 [著]
- 46 2008 年 5 月 芸術とむきあう方法——低く架ける V・ウルリヒ [著]・満留伸一郎 [訳]
- 47 2008 年 10 月 美術館は誰のものか——美術館と市民の信託 J・クノー [著]・村上博哉ほか [訳]
- 48 2008 年 11 月 芸術と民族主義——ドイツ・モダニズムの源流 長谷川章 [著]
- 49 2009 年 6 月 イメージとパトロン——美術史を学ぶための 23 章 稲本真理子・池上英洋 [編著]
- 50 2009 年 9 月 イメージの歴史——ザクスル講義選集 F・ザクスル [著]・鯨井秀伸 [訳]
- 51 2009 年 11 月 浮世絵版画の十九世紀——風景の時間、歴史の空間 菅原真弓 [著]
- 52 2010 年 2 月 眼の神殿——「美術」受容史ノート [定本] 北澤憲昭 [著]
- 53 2010 年 6 月 千野香織著作集 千野香織著作集編集委員会 [編]
- 54 2010 年 9 月 ソニア・ドロネー——服飾芸術の誕生 朝倉三枝 [著]
- 55 2010 年 12 月 竹久夢二——社会現象としての〈夢二式〉 高橋律子 [著]
- 56 2011 年 2 月 現場で使える美術著作権ガイド 全国美術館会議 [編]・甲野正道／山梨俊夫 [著]
- 57 2011 年 2 月 徳川将軍権力と狩野派絵画——徳川王権の樹立と王朝絵画の創生 松島仁 [著]
- 58 2011 年 4 月 絵を用い、絵を創る——日本絵画における先行図様の利用 馬淵美帆 [著]
- 59 2011 年 11 月 ゴッホ 契約の兄弟——フィンセントとテオ・ファン・ゴッホ 新関公子 [著]
- 60 2012 年 1 月 前衛の遺伝子——アナキズムから戦後美術へ 足立元 [著]
- 61 2012 年 10 月 「戦場」としての美術館——日本の近代美術館設立運動／論争史 朴昭炫 [著]
- 62 2012 年 12 月 太陽と「仁丹」——1912 年の自画像群・そしてアジアのなかの「仁丹」 田中淳 [著]
- 63 2013 年 7 月 ターナー——モダン・アーティストの誕生 S・スマイルズ [著]・荒川裕子 [訳]
- 64 2013 年 10 月 近世やまと絵再考——日・英・米それぞれの視点から 下原美保 [編著]
- 65 2013 年 10 月 漢画師——雪舟の仕事 綿田稔 [著]
- 66 2013 年 12 月 戦争と女性画家——もうひとつの近代「美術」 吉良智子 [著]
- 67 2014 年 4 月 コラージュの彼岸——マックス・エルンストの制作と展示 石井祐子 [著]
- 68 2014 年 6 月 風景の美学 R・ミラーニ [著]・加藤磨珠枝ほか [訳]
- 69 2014 年 6 月 ジョルジュ・スーラ——点描のモデルニテ 坂上桂子 [著]
- 70 2014 年 12 月 絵画と都市の境界——タブローとしての都市の記憶 長谷川章 [著]
- 71 2015 年 6 月 〈列島〉の絵画——「日本画」のレイト・スタイル 北澤憲昭 [著]
- 72 2015 年 6 月 語りだす絵巻——「粉河寺縁起絵巻」「信貴山縁起絵巻」「掃墨物語絵巻」論 亀井若菜 [著]
- 73 2016 年 6 月 風景画考 世界への交感と侵犯 I——世界を漂う肉眼 山梨俊夫 [著]
- 74 2016 年 6 月 風景画考 世界への交感と侵犯 II——風景の近代へ 山梨俊夫 [著]
- 75 2016 年 6 月 風景画考 世界への交感と侵犯 III——風景画の自立と世界の変容 山梨俊夫 [著]

- 76 2016 年 9 月 美と大衆 —— ジャポニスムとイギリスの女性たち 桑和沙 [著]
- 77 2017 年 1 月 「美術」概念の再構築^{アップデート} —— 分類の時代の終わりに
国際シンポジウム「日本における「美術」概念の再構築」記録集編集委員会 [編]
- 78 2017 年 7 月 西洋美術：作家・表象・研究 —— ジェンダー論の視座から 鈴木杜幾子 [編]
- 79 2017 年 10 月 ブルーノ・タウト研究 —— ロマン主義から表現主義へ 長谷川章 [著]
- 80 2018 年 3 月 評伝 渡邊省亭 —— 晴柳の影に 古田あき子 [著]
- 81 2018 年 6 月 権力の肖像 —— 狩野派絵画と天下人 松島仁 [著]
- 82 2018 年 6 月 聖なる芸術^{アール・サクレ} —— 20 世紀前半フランスにおける宗教芸術運動と女性芸術家 味岡京子 [著]
- 83 2018 年 11 月 絵画の身振り 山梨俊夫 [著]
- 84 2018 年 11 月 装飾と「他者」
—— 両大戦間フランスを中心とした装飾の位相と「他者」表象 天野知香 [著]
- 85 2019 年 4 月 女性像が映す日本 —— 合わせ鏡の中の自画像 児島薫 [著]
- 86 2019 年 6 月 裏切られた美術 —— 表現者たちの転向と挫折 1910-1960 足立元 [著]
- 87 2019 年 7 月 逆光の明治 —— 高橋由一のリアリズムをめぐるノート 北澤憲昭 [著]
- 88 2019 年 9 月 アンチ・アクション —— 日本戦後絵画と女性画家 中嶋泉 [著]